

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



第69回天皇杯 全日本相撲選手権大会



第 69 回天皇杯
全日本相撲選手権大会

花田秀虎 (日本体育大学) が初 V

36年ぶりの1年生優勝



アマチュア相撲日本一を決める第69回天皇杯全日本相撲選手権大会（主催：日本相撲連盟）は昨年12月6日、東京・両国の国技館で開催された。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、従来の出場選手の選出方法を日本相撲連盟の推薦に変更し、社会人・大学生・高校生の総勢124名が出場した。
熱心なアマチュア相撲ファンが見つめる中、決勝戦で花田秀虎 はなだひでお（日本体育大）が山口怜央 やまぐちれお（近畿大）を押し出して破り、大学1年生としては36年ぶりの快挙で初の栄冠を手にした。



準々決勝＝中村（左）が力強い押し出しで勝利



準々決勝＝山口（左）が播磨投げを決める



準々決勝＝花田（右）が押し出しで勝利した



準々決勝＝松園（左）が押し出しでベスト4へ

同大会は従来、過去1年間の成績によって出場選手を決めていたが、今回はコロナ禍で各種大会が軒並み中止となり事前選出ができなかったため、日本相撲連盟の推薦により124名が参加した。大会は予選トーナメントを勝ち上がった16名による決勝トーナメントで優勝を競った。観客数は、新型コロナウイルス防止のため、前回大会の3分の1となる約1千人に絞った。

決勝トーナメント1回戦では、シヤグダスレン・ダライバートル（日本体育大）、山口怜央、中村泰輝（日本体育大）、川渕一意（日本大）、松園大成（日本体育大）、小山内力樹（日本通運）、花田秀虎、羽出山将（東洋大）の8名が準々決勝に勝ち上がった。

◎準々決勝

山口怜央○播磨投げ ダライバートル

昨年の西日本学生相撲選手権大会で優勝を果たした山口と外国籍で唯一準々決勝へ進出したダライバートルの対戦となった。先に前に出たダライバートルが山口の下に潜って攻めようとしますが、山口は体を捌いて左に回り込み、廻しを取り、自分の

後方へ投げる播磨投げで勝利した。
川渕一意○押し出し 中村泰輝

昨年行われた学生体重別の個人戦と135kg以上の部で顔を合わせている両者。戦績は2試合とも中村が制している。立ち合いは川渕が力強く踏み込んで中村を突き起こし、そのまま押し出して勝利。体重別の雪辱を果たした。

松園大成○押し出し 小山内力樹

前回2位のバルタグル・イエルシン（日本大）を降した松園と社会人で唯一準々決勝に残った小山内の一戦。立ち合いは両者激しくぶつかり合うと、松園が左からおつつけて前に出る。小山内も耐えるがそのまま土俵を割り、松園が押し出して勝利し、ベスト4進出を決めた。

花田秀虎○押し出し 羽出山将

昨年の全国学生相撲個人体重別選手権大会の135kg未満級で優勝した花田と前回大会で5位入賞を果たしている羽出山の対決。立ち合いは互角のぶつかり合いとなるが、花田は羽出山の左差しを許さず、右からおつつけて前に出る。花田はそのまま力強く羽出山を押し出して勝利し、準決勝進出を決めた。



決勝＝花田（右）が力強く押し出して初優勝を飾った



準決勝＝山口（左）が川渕を引き落として勝利



準決勝＝花田（右）が突き落として決勝進出を決めた

◎準決勝

山口怜央○引き落とし 川渕一意

身長175cm、体重125kgの山口と身長185cm、体重190kgの川渕。体格では川渕が山口を大きく上回る。

立ち合いは川渕が制すが、山口は、川渕の両足がそろった瞬間に素早く体を引いて引き落とし、勝利。学生最後の年となる山口が見事決勝進出を決めた。

花田秀虎○突き落とし 松園大成

松園は日体大4年生、花田は同1年生の先輩・後輩の対決となった。両者は体重別選手権で2度顔を合わせており、どちらも花田が勝利している。

立ち合い、花田が1歩踏み込んで前に出る。松園はのど輪で押し返すが、花田が下へ潜り込んで阻止。そして、花田が体を捌いて松園を突き落として勝利。花田が1年生では4年ぶりの決勝進出を果たした。

◎決勝

花田秀虎○押し出し 山口怜央

力強い押し相撲を展開してきたスパールーキー花田と近大勢2連覇を目指す山口の一戦となった。

立ち合い、鋭く当たった花田は山

口に差し勝ち、もろ差しに。山口もなんとかこらえようとするが、花田は左上手をとってそのまま押し出しでの圧勝。

花田は見事、日体大勢としては18年ぶり、大学1年生としては36年ぶりの快挙となる初優勝を果たした。



（左から）準優勝・山口怜央、優勝・花田秀虎、3位・川渕一意、3位・松園大成



●夢は角界 最高峰



優勝＝花田秀虎参段
(日本体育大学)

本大会で優勝することがアマチュアでの目標でしたので優勝できて非常に嬉しいですね。

試合の中で自分の動きがどんな良くなっていくのを感じました。準決勝は先輩との対戦となり、いつも練習しているの、少しやりづらい部分もありましたが、気持ちでカバーしました。決勝の舞台では絶対に負けることはないという心で感じていました。それでも気持ちが舞い上がらないように抑制して良いコンディションで試合に臨めたと思います。

本大会の試合は全て良い相撲でした。点数でいうなら全て90点以上を出せた感じです。誰が優勝し

てもおかしくない大会で、全力を出し切れたのが優勝できた大きな要因だと思います。

日体大の斎藤一雄監督からは相手に何もさせないことを目標に相撲を取れと教わっていたので、今日は教えの通りにできたと思います。コロナの影響で大学に行くことができず、地元の和歌山で練習を積んでいました。相撲以外のトレーニングとして陸上やレスリングもやっていたので、それも結果に繋がっていると思います。

大学で練習を再開できたのは2020年8月頃で、自分の力が低下したかもしれないとの不安がありました。しかし、部員が集まって練習を始めて次第に自信を取り戻しました。

今回は押し相撲が光ったので、その部分をもっと磨いていきたいと思っています。

将来は大相撲に入り、横綱を目指したいと思っています。

決勝トーナメント



第3位 準優勝

山口 怜央
川淵 一意
松園 大成

※予選トーナメントで勝ち残った16選手が決勝トーナメントに進出

好評発売中

漫画家
別府大学客員教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！



B5判・並製・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。

人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子どもも読んで楽しく、歴史も学べる武道教養マンガ。



収録偉人一覧

嘉納治五郎(柔道) 高野佐三郎(剣道) 阿波研造(弓道) 双葉山(相撲)
船越義珍(空手道) 植芝盛平(合気道) 宗道臣(少林寺拳法)
園部秀雄と美田村千代(なぎなた) 鶴沢尚信(銃剣道)



編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部

「武道推進モデル校」銃剣道・なぎなた・少林寺拳法

各地の中学校で 着実に進む多様な武道授業

2019年度から始まったスポーツ庁の「武道推進モデル校」の事業。本年度も、都道府県・政令指定都市教育委員会がモデル校に選定した中学校では、外部指導者を活用した多様な武道授業が実施されている。

本欄では、同庁が視察した、富山県南砺市立井口中学校（銃剣道）、兵庫県明石市立衣川中学校（なぎなた）、そして石川県小松市立板津中学校（少林寺拳法）の授業を紹介する。



直突の体験(井口中学校の銃剣道授業)

■銃剣道・南砺市立井口中学校

昨年11月11日午後、全学年合同の銃剣道授業が行われ、スポーツ庁の斎藤祐介政策課学校体育室指導係・保健教育係長が視察。日本武道館から中島昭博振興部振興課長が同席した。

(1)授業の概要

井口中は2019年、全日本銃剣道連盟や富山県銃剣道連盟などの協力を得て、初めて銃剣道授業を実施した。20年度は11月11日に、外部指導者8名の協力の下、全学年17名の合同で全2時間の銃剣道授業が行われた。銃剣道授業とともに、全11回の剣道授業を行っている。

(2)授業でのコロナ対策

外部講師、生徒はマスクを着用。生徒用の木銃は、事前に消毒してあり、番号が付けられている。間接的な接触感染を防ぐため、生徒が自分を使用する木銃以外は触れないように、指導者は徹底した指示を行っていた。

また、木銃を突く時の掛け声は飛沫感染防止のため控えた。

(3)授業内容

授業では富山県銃剣道連盟の井嶋大事務局長が指導した。初めに『日本武道協議会設立四十周年記念中学校武道必修化指導書』の銃剣道DVDを視聴して、銃剣道の起源や歴史、用具について学んだ。

実技は講師8名が見本を示しながら、座り方、立ち方、木銃の持ち方、座礼、立礼、足さばきと進む。最後に掛け声なしの空間打突を行い、1限目は終了した。

2限目は、全日本銃剣道連盟の衛藤敬輔事業部長を中心に、3人一組になって新聞突きとボール突きを実施した。生徒たちは体育館いっぱいに広がり、ゲーム感覚で行える実技を楽しみながら取り組んだ。新聞突きやボール突きが成功した生徒には指導者や教員から拍手が送られ、生徒の表情には思わず笑みが溢れた。実技後、衛藤講師は「突こうという気持ち強いと上手いきません。それを抑えて、まっすぐ突くと上手いきます」とポイントを伝授した。

続いて、講師による模範試合が行われた。実力者による迫力ある試合を生徒は固唾を呑んで見守り、試合



新聞突き



全員での空間打突

後に大きな拍手を送っていた。

最後に、生徒が講師陣の胸を借りて直突を体験。生徒は、空間打突や新聞・ボール突きとは異なる、木銃の先端からずしりと伝わる感触を身体で感じながら最後まで気を抜かずに行っていた。



●井畠大富山県銃剣道連盟事務局長

「2020年はコロナで勝手が違いましたが、木銃を消毒したり、相手との距離を保ちながら行ったりと、感染対策に努めました。銃剣道は武道ですので礼節が大切です。生徒には授業で銃剣道の礼節や礼法を学び、精神的にも成長してほしいです」

▼生徒の声

・中学1年女子

「銃剣道や武道には礼があります。日本の伝統文化だと思っから大切にしたいです」

・中学1年男子

「銃剣道の体験は他ではできないことなので、覚えたことは忘れずにいようと思います。先生方の試合はすごかったし、審判の方もあのスピードでよく判断できるなと感心しました」

■なぎなた・明石市立衣川中学校

同11月13日午前、なぎなたの授業が行われ、スポーツ庁の伊藤賢政策課学校体育室長ら3名が視察した。授業は外部指導者として、明石なぎなた協会の中安純子氏と花井聡子氏を招き、中学3年生2クラス合同の66名で実施された。

(1)授業の概要

衣川中は2017年度より全学年において武道の授業でなぎなたを取り入れている。2名の外部指導者の協力の下、全9回の授業を実施している。

授業はチームティーチングで行われ、複数の保健体育科教員が進めており、学年ごとに中心となる教員(T1)を配置し、その教員が武道授業の計画を綿密に立てている。また、体育館の壁には1本目から5本目までの一連の動作が印刷された模造紙を貼り、生徒がその内容を理解しやすいように可視化していた。さらに、外部指導者を招き、専門的な部分に関する指導を行える環境を整えている。

(2)授業内容

この日は2回目の授業。3年生の体育授業を行う木戸康友教諭が前回までの復習と今回行う授業の内容を説明した。

中安・花井両講師が一つ目の課題である八相の構えからすねの打ち方について模範を示しつつ説明。その後、改めて木戸教諭が構えから技をかける時の注意事項を説明、「男子は力があるので、勢いよくなぎなたを下ろすのではなく、力を抜いて自然にすねへ技をかけることを意識するように」などと助言した。

次に実践練習を行った。まず、木戸教諭の号令に合わせて一連の動作を行い、その後は生徒が2人1組になり互いに号令から技を掛ける練習を行った。上手くないかない生徒には中安・花井両講師が直接助言していた。

続いて、生徒は木戸教諭の指示により、4本目の要領が書かれた模造紙の前に集まり、学習した単元で気づいたことを模造紙の空白に書き込み、互いに情報を共有した。

その後、再び中安・花井両講師はすねを打たれた後の振り上げからの



生徒への模範を示す中安・花井両講師



生徒への助言を行う中安講師



振り返し面の練習

面打ち、それを返し面で打つまでの流れを示範した。次に木戸教諭が舞台から号令を掛けて反復練習を行った。最後に生徒同士で一連の動作を行い、実技が終了した。

授業の締めくくりに中安講師からは「技をかける時の力が抜けていてすごく良い形になっていると思います。基本通りに正しく打つことを意識して学習してください」、花井講師からは「生徒から質問が出るようになりました。自分で考えることが大切です」とコメントがあった。



●伊藤賢スポーツ庁政策課学校体育室長

「現在、各校ではコロナ禍の中で体育授業を工夫しながら実践してもらっています。衣川中学校の授業を見ていて、なぎなたは柄が長く、距離を取って実施できるので、従来通りの授業ができると感じました。また、主となる体育の先生だけでなく、さまざまな方（サポートの教員や外部指導者）の協力を得ながら武道授業を充実して行うことができる一つの事例を拝見できたと実感しています」

●中安純子講師、花井聡子講師

「中学校でなぎなたを教えることは道場で教えるより工夫が必要です。それは、道場とは異なって、授業はあくまで先生が主体であるためです。時間も限られておりますので、技術的なことよりも武道として得られるのは何かということに重きを置いて考えています。また、授業の進行については、授業が始まる前に先生方と内容のすり合わせをしつかり行っています。さらに授業後、次の授業に向けての指導上の反省点をお話し、フィードバックを行っています」

●利一裕校長

「本校では体育教員が主となって授業を進めることを重視しています。専門的な部分に関しては外部講師のお2人にお任せしておりますが、生徒への指示や説明については担当教員が時間内に終わるよう、計画をきちんと立てて授業を行っています。また、武道授業を受けている子どもたちは凛々として、礼節や相手への感謝の気持ちを学ぶことができ、良い効果があると実感しております」

■少林寺拳法・小松市立板津中学校

同11月25日午前、2年生、1年生による少林寺拳法の授業が行われ、スポーツ庁の関伸夫政策課教科調査官と古市智政策課学校体育室長補佐・武道推進調査官が視察した。

(1)授業の概要

板津中は2019年、少林寺拳法石川小松スポーツ少年団の協力を得て、1年生で初めて少林寺拳法の授業を実施した。20年は11月に、同少年団より6名の外部指導者（このう



2年生による合同練習

ち常時2名以上が授業に参加）の協力を得て、2年生と1年生で8時間の授業が行われた。少林寺拳法実施後は8時間程度の柔道授業を予定している。

(2)授業でのコロナ対策

教員、外部講師、生徒はマスクを着用し、対人距離をとって非接触により授業を実施した。

(3)授業内容

この日の授業は少林寺拳法石川小松スポーツ少年団の中山俊宏支部長の立合いの下、同少年団の桜田昭男助教を中心に外部指導者3名によつ



模範演武を披露した2年生男子の2人組

て、2年生男女27名、1年生男女26名で展開された。

2年生の授業では、8時間のうち最終回の授業として組演武の発表が行われた。2人一組での練習後に、男女に分かれてそれぞれで発表が行われた。生徒たちは、緊張しながらも精いっぱい力を出して演武を行った。男子生徒の中には経験者かとも目を見張る演武をするグループもあり、最後にそのグループが模範演武を披露し大きな拍手が送られた。桜田講師からは「2年間の経験と成長が感じとれました」との感想が述べられた。

外部指導者に代表の生徒が2年間のお礼を述べて授業は終了した。

板津中学校の西出清浩校長は「生徒は興味を持って授業に取り組んでいます。また、少林寺拳法は板の間で体育着で実施できるため、学校としてもやりやすい武道授業だと思えます」と話し、満足そうな様子であった。

1年生では、7限目として組演武の練習を行った。生徒たちは内受突（うちうけつづき）と上受蹴（うわうけけり）の動作に戸惑ったものの、一生懸命にこなしていた。後日行わ

れた授業で演武発表を行った。

◆ 中山俊宏少林寺拳法石川小松スポーツ少年団支部長

「中学校で少林寺拳法の授業を普及していく上では板津中学校は良い見本になると思います。2020年はコロナ禍が広がるなかでの授業でしたので間合をしつかりとるように特に気をつけました。授業では、少林寺拳法の教えである自己確立と自他共楽の2本柱を学んでもらいたいと思います」

▼生徒の声

・模範演武を披露した2年生男子
「気合いを入れて演武しました。授業が始まった時は、さほど興味はありませんでしたが、パートナーとともに互いに高め合いながら練習していくことに魅力を感じました。今後は少林寺拳法の教えの部分を私生活に生かしていきたいと思います」



好評発売中

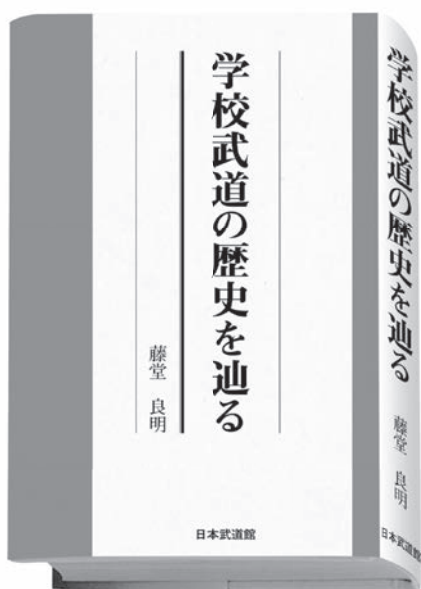
藤堂良明 (とうどう よしあき)
(筑波大学名誉教授) 著

学校武道の歴史を辿る

四六判・上製・354頁・本体2400円＋税

江戸時代の藩学教育に遡る学校武道の歴史。明治維新を迎え武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度のなかに組み込まれ発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え「格技」として復活、平成20年には「中学校武道必修化」が実現した。

学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。



著者略歴

藤堂良明 (とうどう よしあき)

1949年(昭和24)、埼玉県生まれ。東京教育大学体育学研究科修士課程修了。筑波大学教授(体育科学系)、同大学体育専門学群副学群長、同大学附属中学校長、全国国立大学附属学校連盟会長、日本教育大学協会副会長、日本武道学会理事、全日本柔道連盟教育普及委員会委員などを歴任。

現在、筑波大学名誉教授。博士(学術)。柔道七段。埼玉県柔道連盟副理事長。日本古武道協会常任理事。

目次

第1部 江戸時代の学校武道

- 第1章 藩学の創設と文武学習
- 第2章 藩学における教育目標
- 第3章 藩学における武芸教育

第2部 明治時代の学校武道

- 第4章 武芸の衰退と学校教育制度の確立
- 第5章 学校武術採用に関する体操伝習所の答申
- 第6章 山岡鉄舟と嘉納治五郎
- 第7章 嘉納治五郎の学校柔道普及戦略
- 第8章 明治期の学校における武術の普及状況
- 第9章 武術の正課採用への歩み

第3部 大正時代の学校武道

- 第10章 文部省主催武術講習会の目的と内容
- 第11章 学校体操教授要目の制定と内容
- 第12章 「学校体操教授要目」制定後の体育界の動向
- 第13章 大日本武徳会の設立と影響
- 第14章 学生武道の隆盛
- 第15章 改正学校体操教授要目の制定と内容

第4部 昭和20年以前の学校武道

- 第16章 精力善用国民体育と学校武道
- 第17章 柔・剣道が正課必修に
- 第18章 戦前の学生武道大会の発展
- 第19章 国民学校体錬科の登場
- 第20章 第二次大戦中の体錬科武道

第5部 戦後の学校武道

- 第21章 戦後の学校武道の禁止と復活
- 第22章 「格技」の誕生
- 第23章 格技から武道へ
- 第24章 中学校武道必修化の実現
- 第25章 これからの学校武道のあり方

発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中

合気道九段 多田 宏 著

合気道に活きる

四六判・上製・402頁・本体2400円＋税

昭和初期に生れ、戦後の早大生時代に植芝盛平、植芝吉祥丸、船越義珍、中村天風、日野正一の諸先生の教えを受け、合気道の稽古を生涯の道と志す。

昭和から平成への激動の時代に、本部道場師範を務め、各大学に合気会を創設、自らの道場も主宰し、さらに欧州各国への普及に尽力。合気道に活きた泰斗の軌跡を余すところなく示す珠玉の一冊。



多田 宏 (ただ ひろし)

昭和4年(1929)12月14日生。東京都出身。早稲田大学第一法学部在学中の昭和25年、植芝道場入門、合気道を始める。植芝盛平先生、吉祥丸先生に師事。同年、天風会入会、中村天風先生に師事。同年、一九会道場入会、日野正一先生に師事。昭和27年早稲田大学卒業。合気道の稽古と日本武道の歴史研究を専門とする道に進む。合気道本部師範・防衛庁師範を務め、慶應義塾・学習院・早稲田の各大学合気道会設立に尽力、師範となる。昭和39年渡欧し、欧州各国での合気道普及に尽力。イタリア合気会を創設。
現在、合気会本部師範、早稲田大学合気道会名誉師範、東京大学合気道気錬会名誉師範、イタリア合気会主任教授、国際合気道連盟委員など。また、合気道多田塾を主宰。合気道九段。

目次

第一章 生い立ち

- 一 原点
- 二 幼稚園から小学校時代
- 三 第一東京市立中学校

第二章 師との出会い

- 一 松濤 船越義珍先生
- 二 植芝盛平先生・吉祥丸先生
- 三 中村天風先生
- 四 鉄叟日野正一先生・みちゑ先生

第三章 生き方の方針

- 一 植芝道場 先輩の教え
- 二 命の基を訪ねて
- 三 一生の方針を定める

第四章 植芝盛平先生の教えと稽古

- 一 気の錬磨
- 二 合気道の心
- 三 心学の道、心法の道
- 四 稽古と法
- 五 稽古の目的、人の生き方
- 六 「機」について
- 七 錬る
- 八 自然な動き
- 九 場を主宰する

第五章 合気道の普及

- 一 合気道の発展
- 二 「気の流れ」の錬磨
- 三 ヨーロッパの合気道
- 四 合気道の国際的普及
- 五 気の流れと縁

第六章 呼吸法(調気の法)

終章 稽古を顧みる

発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。